

平成27年度 学 校 評 価 表

雲石町立南畑小学校

経営理念	『明るく かしく たくましく』を求めて	教育目標	○ 明るく助け合う子ども ○ かしく工夫する子ども ○ たくましく根気強い子ども
		経営の重点	1 「いわての復興教育」の推進 2 道徳教育の充実 3 個に応じたきめ細やかな指導による学力保障 4 教育専門職としての指導力の向上 5 教育実践の場としての環境づくりの推進 6 開かれた学校づくりの推進

評価		計画		画		自己評価		学校関係者（学校評議員、PTA 会長、副会長）による評価		改善計画	
	まなびフェスト	達成のための 方策	評価指数	目標値	7月 達成 値	1月 達成 値	結果と課題の説明	コメント		改善案	
明るく助け合う子ども	・元気な挨拶・返事が進んでできる。 ＜学校＞ ・家族にも近所の人にも進んで「元気な挨拶・返事」をする。 ＜家庭＞	・学級経営の充実、好ましい人間関係と集団生活のルール指導の徹底 ・基本的な生活習慣を確立するための家庭と連携した取り組みの推進	習慣化できた児童の割合 （教師・保護者による評価）	85	93	95	挨拶・返事に関しては、2学期も学校や家庭での評価が高い。長年の取り組みの成果でもある。来客時の挨拶や時と場に応じた挨拶については課題が残る。	○長年の取り組みの成果が表れている。挨拶の大切さは、人間関係の希薄化が叫ばれる中で、人と人の結びつきや地域づくりなどにも効果があるものであり、今後とも継続した取り組みを望む。 ○道徳等の時間の中で、あいさつの意義や大切さを話し合う機会を設ける。（改善案） ○あいさつ・返事は、社会の中の人間としての基本。変わらない高い達成値評価は喜ばしい。時と場に応じた挨拶はそもそも難しい課題。実例に基づいた丁寧な指導を心がけるしかないだろう。 ○学童の迎えの際に、きちんと他の子から挨拶をもらおう。今後もこのような取組でいいと思う。 ○学校で子どもたちと会うときは、きちんと低学年から高学年までしっかり挨拶してくれる。 ○高学年はもちろん、低学年の子どもたちも挨拶ができるようになったと思う。		道徳の時間も含めた全教育活動を通じて、挨拶の意義を伝え、学級や全校での集会の場などで具体的に褒め・認めながら、時と場に応じた指導を行っていく。	
	・自分の仕事をやり遂げる ＜学校＞ ・家族の一員として、「自分の仕事」を行う。 ＜家庭＞		習慣化できた児童の割合 （教師・保護者による評価）	85	学校86 家庭28	学校90 家庭46	昨年度比ほぼ横ばい状態であるが、学校と家庭で評価が分かれる項目。傾向も前年度から引き続いている。。	○学校生活の中で与えられた、習慣化された役割を消化することと家庭生活の中での仕事の与え方の相違による部分が結果として評価に表れている気がする。仕事の与え方の工夫が必要。 ○学校で、子どもたちは協力し合いながら生き生きと活動している姿が見られる。これは、それぞれの居場所がある証であり、一人何役もこなさなければならない状況の中で、しっかりとした成長がみられることから、小規模校の特性を最大限に生かし指導に当たってほしい。 ○家庭での評価が低いのが気になる。家庭での仕事や役割を具体的に紹介し、子どもたちがそれをもとに具体的な目標や内容を設定し、継続した取り組みができるよう支援が必要。（改善案） ○学校と家庭での評価が分かれるのは、ごく自然なことと考える。家庭での評価を高めるためには、教師による根気強い動機付けも有効か。 ○家庭での仕事がどういうものか、いろいろと知りたい。 ○学校での自分の仕事はきちんとやり遂げていると思うが、家族の一員としての自分の仕事は、毎日となるとなかなか難しいと思う。夏休みや冬休みだからやらなきゃいけないと思ってやっていると思う。 ○家庭では、自分の仕事を特に与えていないが、気づいたことはこちらが何も言わなくても手伝ってくれる。		学校からの通信等で、家庭での仕事の意義や、これまでの家庭での仕事の中身や取り組み方の具体例を紹介し、家庭の実態に合わせた取り組みができるよう、少しずつ取り組んでいく。仕事の中身を記載できるよう、個人評価表を見直す。	
かしこく工夫する子ども	・習った漢字と計算を確実にできるようにする。＜学校＞ （1、2、3年…90%以上 4、5、6年…85%以上） ・毎日家庭学習をする。＜家庭＞ （学年×10分＋音読）	・漢字・計算検定の実施 ・朝学習、ステップアップタイムの充実 ・家庭学習と授業の連動	個別の目標達成の割合 家庭での学習の様子 （保護者による評価）	85	85	98	学校、家庭共に評価が向上した。「わかる授業」や、雫石町スタンダード、南畑小スタンダードの徹底、そして家庭学習の連動等の学力向上に向けた取り組みが成果として表れたか。	○取り組みの結果が表れている ○子どもたちの学力の定着は学校の最大の責務。学力の基本である「読み・書き・算盤」は、教員の指導はもとより、家庭学習の定着を図るなど、子どもたちの学習意欲を高める取り組みが不可欠であり、成果を検証し内容を検討する必要がある。 ○間違えた問題を、授業の中で直すのか、家庭学習でもう一度やり直すのかなど、子どもの個性に応じた対応が必要、（改善案） ○まことにうれしい評価結果。素晴らしい。 ○達成値が向上してなにより。 ○見直しをもっとすればよいと思う。家庭学習も以前よりは頑張っていると思う。		読み・書き・計算を次年度学校経営計画の重点に具体的に明記し、取り組む。児童・家庭理解をもとに、個に応じた指導を行う。授業力を向上に励み授業と連動した家庭学習に取り組ませる。	
	・読書活動に積極的に取り組む。 ＜学校＞ （1、2年…100冊以上 3、4年…60冊以上 5、6年…40冊以上）	・本に親しむ活動の充実 ・各学年の「おすすめの本」の紹介	個別の目標達成の割合 親子読書の状況	85	93	90	魅力的な図書館経営、読み聞かせ等の関係機関との連携、環境作り、家庭と連携した習慣作りに取り組んだ。貸し出しカードに記入忘れが多かったことも達成値の減少に影響した模様。	○学校図書館は、子どもたちの豊かな感性や想像力をはぐくむ読書活動を支えるとともに、知識や学力向上に重要な役割を担っている。子どもたちが読みたい本、研究したいと思う本を見つけることができる本当の意味での充実した学校図書館を望む。 ○読書の意義や重要性、読書活動を推進する方法などについて、保護者に理解を深めてもらう必要がある。（改善案） ○まことにうれしい評価結果。素晴らしい。 ○記入忘れはもったいないが、本をたくさん読める子が多くてすごい。 ○もっと本を読んでほしいと思うが、あまり読まない。		言語能力向上のための読書としても学校経営の重点に位置づけ、引き続き取り組む。図書選定も含めた環境づくりの工夫、学校での読書指導、家庭との連携による読書習慣づくりを継続して進めていく。	
	・テレビ・ゲームは2時間まで （平日） ＜家庭＞	家庭との連携強化による取り組みの推進 ・ノーゲームデーの取り組みの推進	個別の目標達成の割合	90	86	68	教育振興運動の取り組みと合わせて継続して取り組んだが、大きく減少した。傾向は変わらない。	○達成値が大幅に減少し残念。毎日朝食をとっているか、ゲームやテレビを見る時間がどうなっているかなど、子どもたちの生活習慣と学力には高い相関関係があるといわれている。今後とも家庭と連携した生活習慣の改善を望む。 ○ただ単に、「ゲームをしてはダメ」、「テレビを見てはダメ」ではなく、家庭の中でテーマを考えて実行する一日をつくる。「ノーゲームデー」より「家庭みんなで行動する日」の創設を望む。（改善案） ○そもそも難しい課題であろうと理解する。ただ、大きく目標値を下回ったのは残念。あきらめず、根気強く！ ○教振運動が年々縮小している気がする。目的、目標が家庭に行き届いてないと思う。 ○月曜日のノーゲームデーは守れているが、平日2時間は守れていないときもある。 ○テレビ、ゲームの平日2時間は守れていると思うが、気づくとゲームをしている。離れられない。		教育振興運動と連携し、児童一人一人の実態把握に努め、情報モラルの指導も含め、保護者と連携して改善に取り組んでいく。習慣の重要性について指導・啓発をすすめる。	
たくましく根気強い子ども	・「早寝・早起き・朝ごはん」を行う。 （※寝る時刻 1から3年…9時 4から6年…9時30分） ＜家庭＞	・基本的な生活習慣を確立するための家庭と連携した取り組みの推進	習慣化できた児童の割合 （保護者による評価）	90	93	82	3つのうち特に早寝早起きに低評価傾向がある模様。達成値が減少した。傾向は変わらない。	○テレビ、ゲームへの取り組みの成果と連動していると思う。一工夫がほしい。 ○時間を守ること、約束を守ること、正義感、感謝の心など、生活していく中で必要なルールや考え方、望ましい行動を身につけさせる取り組みが必要。学校で子どもたちと生活を共にする教職員が「大きな背中を見せる」姿勢も重要。 ○目標達成のためには徹底した指導と継続がすべて。生活リズムづくり、家庭生活の在り方などについての啓発が必要。（改善案） ○これも難しい課題であろうが大事な項目。前回との達成値にかなり差がある原因は何だろうか？その原因への対応が改善案になるのでは？ ○早寝、早起きに関しては家庭での努力が大事。保護者側の協力が大切。 ○習い事があったりすると、寝る時間が遅かったり、早起きもできないときもある。 ○親が起こしに行くことは、めったにない。朝食もきちんと食べる。		前項と同様に取り組む。道徳的な社会的価値を持った感情を養う活動として、掃除、給食、係活動等の日常の活動の充実を経営重点に明記し職員と一緒に活動する。大体OKはAなど、評価の基準を明示する。	
	・給食後の「バディー歯みがき」により、歯みがきの仕方を身に付ける。 ＜学校＞ ・毎日朝晩の「歯みがき」をする。 ＜家庭＞	・歯みがき指導の推進	習慣化できた児童の割合 （教師・保護者による評価）	90	88	96	低い傾向にあった低学年が、学校、家庭共に向上。学校での様々な取組みや、家庭と連携した取組みの成果と考えられる。	○家学連携の成果と思う。 ○数値は高いが、100%を目指すべき項目だと思う。個別指導をしながらしっかりとした歯磨き習慣ができるよう改善を行ってほしい。 ○学校での様々な取り組み、家庭との連携が見事な成果を示した例だと思う。素晴らしい。 ○低学年は特に、歯の生えかわりなどもあるので、向上できたことは素晴らしい。 ○学校でのバディー歯磨きは、とても素晴らしいことだと思っている。○朝晩の歯磨きも、ちゃんとできている。		学校での昨年度からの歯みがきの取り組みの成果が認められる。100%をめざし、今後も継続して指導にあたっていく。	
	・自分の目標を決めて持久走や縄跳びに取り組む。 ＜学校＞	・「はつらつタイム」の継続的な推進	個別の目標達成の割合	90	97	99	2学期も、どの学年も良くてきていた。全校の取り組みとして、徹底していた。	○集団の中での取り組みが良い意味の競争意識にもなっていると思う。 ○体力づくりの成果が上がっており、子どもたちの意識も高いので、発達段階に応じた指導を継続してほしい。 ○本当に素晴らしい結果。関係各位のご努力に敬意を表します。 ○各学年でなく、全校で向上できていることが素晴らしい。○目標を決めてとはいかなかったようだ。 ○自分で目標を決め、全校での取り組みは、とてもいいことだと思う。継続してほしい。		今後、全校集団作りも意識しながら、年間を通した体力づくりを行ってきたい。	